

幼児の自然体験型環境学習プログラム

森・山

プログラム名		木の妖精と遊ぼう	
対象年齢		4歳5歳児	
ねらい	メッセージ	木にも個性があることに気づく	
	発見・体験できること	五感を使って、木に触れたり、においをかいだりして木になり表現する。	
参加者のめやす		幼児 25人	／ 支援者 2人
実施時間		30分	
フィールド			
実施可能時期			
自然を感じるためのヒント			
時間	活動	配慮・アドバイス・アレンジ	
0:00	<p>子どもの見つけやすい場所に、手紙を置いておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 森に置かれた手紙を見つける。 木の精を呼び <p>妖精の登場</p> <ul style="list-style-type: none"> 森の中を電車になって、めぐる 緑グループと赤グループに分かれて、探検する。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑と赤と分かる杖を持って、スムーズにグループに分かれられるようにする。 木に触れられるように、木を乗り越えたり枝の間を歩いたりする。 	
0:10	<p>自分たちが木になってみる。</p> <p>1人 2人 3人 4人 5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 魔法をかけるような言葉掛けで、木に変身することを楽しめるようにする。 	

年中



時間	活動	配慮・アドバイス・アレンジ
0:15	<ul style="list-style-type: none"> 保育者（木の精）が、ポケットから木の写真を取り出し、チームごとに、その木を探しに行く。 見つけた木に名前をつけるために、木と触れあう。 グループごとに木の名前を発表する。 木も含めて、子どもたちみんなと一つの輪をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真は全体を撮ったものと、特徴が分かるパーツを撮ったものを用意する。 見つけにくいようであれば、保育者が手伝う。 木が見つかったグループから、名前をつけるために、木を触ったり、耳を近づけてみたりにおいをかいでみたりする。 出来れば、どうしてその名前をつけたのかも発表してもらう。
0:25	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ自分たちの木を抱きしめる。 まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで1つの大きな木を作る感じでつながる。 自分たちが名前をつけた木に愛着が持てるように言葉かけをする。
0:30		<ul style="list-style-type: none"> 木も違うように、子どもも顔も様子も違う。違うことでいいということを伝える。
	<p>【実施した保育者や参観者からのふりかえり】 実施時は、突然の大雪で、急遽雪の中でプログラムを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪があることで、より深い新しい発見があった。 雪という寒さへの対応。冷たさや厳しさもあることを伝えることができる。 雪がない木の写真（無積雪時に撮影）で、雪の中から木を探す面白さがあった。 <p>【園や家庭に帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> 妖精のコスチューム等で工夫すれば、さらに子どもたちが入り込むであろう。 頬ずりをして木の言葉を聴く子どももいた。表現やつぶやきが良く、普段の保育でも共感できるようにしたい。 園の木にも名前をつけたいとつぶやく子どももあり、木がたくさんあり、有効に活用できる。 	
準備物・教材等	<p>ステッキ2（赤と緑が分かるもの） 木のクイズの写真 2枚×5グループ分</p>	

